

日本の都市・集落の町並みや住居について研究しています。とくに専門は江戸時代の門前町・温泉地の町並み研究と江戸時代の御殿研究・民家研究です。前近代における地域の経営のしくみを現存遺構や歴史史料から分析することで、そこに成立した町並みや風景の意味を読み解きます。こうして解明した地域の風景を成立させる要素を元に、風土に根ざした建築の提案を行ないます。



助教 中村 駿介

長野県生まれ。県立長野高校卒業、東北大学卒業、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了、宮本忠長建築設計事務所、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、石川県金沢城調査研究所を経て2026年より現職。

>> 私の学問へのきっかけ

野沢温泉村に生まれ長野市と小川村で育ちました。自分の生まれ育った地域の環境を知りたかったことがきっかけで、大学の卒業研究で銀山温泉町の町並みの変遷を調べたことが研究の原点です。その後は、さらに歴史の古い有馬温泉町を研究しましたが、明確な答えは出ませんでした。建築設計実務を経験した後に博士課程に進み、研究を進めた際に温泉地の歴史が門前町と通じることがわかりました。最終的には寺社門前へとテーマを変え、地元である善光寺をはじめとする日本の門前町（門前）の経営の仕組みと都市空間の歴史をまとめることになりました。

>> 研究から広がる未来

歴史的環境のなかで生きているということ。日本や世界の魅力的な町並みや集落で、地域の暮らしに貢献する建築を建てるということが大事だと考えます。新築や改修、復元などどんな物を建てるのか、また建てないのか、考える思考の基礎を作ることはどんな社会でも生きると思っています。

>> 卒業後の未来像

自身で考えたものを実践するための建築設計事務所。仕組みを作り運営していく地域の担い手や自治体職員。史料を集め研究を深め広めていく学芸員。情報収集能力を元にした編集者・記者。実際に形をつくりだす職人。どんな仕事でも歴史的な学問の思考は活きています。卒業後も仕事をしながら自身の研究を深め続けてほしいと考えます。



善光寺仲見世通りはかつては堂庭と呼ばれ、市場として仮設的な小屋が建ち並んでいました。門前町の計画と経営から現われた空間です。



町並み調査はフィールドワークで得た成果を、GISや歴史史料を用いて分析することで、目には見えない文化を捕えることができます。

先鋭融合

建築学

研究キーワード

都市建築史、住居史、歴史的環境下における建築設計

研究シーズ

都市建築史

- ・日本の門前町の経営と都市空間についての研究
- ・群馬県吾妻郡の集落調査
- ・石積みを用いた集落の形成過程の研究
- ・有馬温泉、野沢温泉村

住居史

- ・住居の地域性と身分制についての研究
- ・群馬の民家、伊勢の町家、加賀藩の武家住宅
- ・日本の旅館建築
- ・北信越地方の御殿空間の研究
- ・御殿の柱間装置・建具についての研究
- ・地域の建築建材（木材・紙・土）構法についての研究
- ・商職人の文化史研究

歴史的環境下における建築論

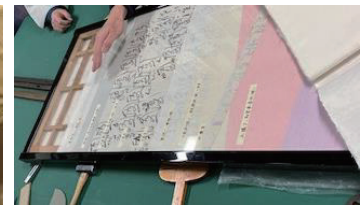
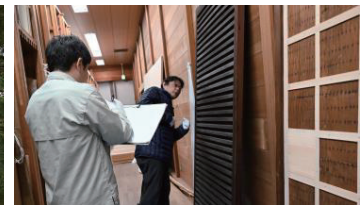
- ・贈与論（互酬性・聖性）を用いた建築設計論の研究
- ・建築家・宮本忠長による建築作品と「まちづくり」の研究

共同研究・外部資金獲得実績

- ・寺院と町人の経営にみる近世門前町の都市空間についての研究（科研費/特別研究員奨励費 2022年-2023年度）
- ・近世門前町「伊勢山田」の寺院と御師住居の関係に関する研究（竹中育英会/竹中育英会建築研究助成 2021年年度）
- ・金沢城御殿空間の専門委員会 専門委員（石川県金沢城調査研究所 2026年度-）

最近の研究トピックス

昨年まで石川県の研究者として、金沢城二ノ丸御殿の復元に際した御殿の調査研究に従事していました。歴史的な城下町を住みこなすための仕組みは、地域の独自の研究手法にも現われています。石垣の構築技術についての研究や、武士の身分と御殿空間、茶道や建具などの「文化」についての研究など、多くを教えてもらいました。時には金沢職人大学校で職人さんたちに混じり、伝統的な職人の仕事を教わりました。こうした文化や技術の研究は地域の町並みの構成要素として重要な役割を果たします。



I conduct research on the dwellings of Japanese cities and settlements. By analyzing the mechanisms of regional management in premodern times through existing architectural remains and historical documents, I interpret the significance of the streetscapes and landscapes that emerged there.



**Assistant Professor
Shunsuke Nakamura**

The University of Tokyo.
Dr.Eng.(2024)
Architectural History and
Urban History. The History
of dwelling. Theory of
Architectural Design.

≫ Beginnings of my path to academia

My research began when I wanted to learn more about the environment of the area where I grew up, which led me to study the history of the townscape for my undergraduate thesis. Since then, I've become captivated by the fascination of research and have made a career as a scholar.

≫ In the Future

Living within a historical context. I believe it is important to construct buildings that contribute to local life in the charming towns and villages of Japan and around the world. I believe that establishing a foundation for architectural thinking is essential in any society.

≫ After Graduation

An architectural design firm, Local leaders and municipal employees, Curators. I believe that the analytical approach of historical scholarship is valuable in any profession. I hope that even after graduation, you will continue to deepen your own research while pursuing your careers.



The town in front of Zenko-ji Temple is a space created through urban planning and management by the temple and its residents.



By analyzing the findings from fieldwork using GIS and historical records, a streetscape survey can capture cultural elements that are not immediately visible.